

齋藤早花 さかき 新聞記者、隨筆家。明治十年一月七日大阪生れ、昭

和二十五年五月二日歿（二七七一—一九五〇）。本名謙藏。筆名早花生、潮歌

生、潮書活、葦陰漁史、葦陰漁老、齋藤潮歌、齋藤謙等。京都中學校

中退。明治二十四年上京、國木田獨歩を知り親交。二十六年『神戸新

聞』社會部長、のち『東京日日新聞』、『關西日報』等記者。

著書『記念川春詩集』（明治二十六年十月—二十五年金港堂書籍株式會

社）、『心算録』（明治二十八年十一月五日佐久良書房）、『田園生

活』（明治二十九年五月十五日隆文館）、『湖畔の家』（明治四十年

十一月十日百信文社）、國木田獨歩著『欺かざる日記』全二冊（昭

花袋江東共校訂、前編・明治四十一年十月十五日、後篇・四十二年一月五

日佐久良書房隆文館）、『むら雲』（合著・大河桂月・笹川崎風編、明治四

十二年一月五日百信文館）、『古田松陰』（齋藤謙名、明治四十二

年五月十五日隆文館）、『早花小品』（明治四十二年七月二十五日隆

文館『山崎叢書』）、『古賢と報徳』（齋藤謙名、明治四十二年二月

一日隆文館『報徳叢書』）、『現代名士と報徳教』（旬、明治四十四

年四月二十日隆文館『報徳叢書』）、

『早花小品』（一）第一輯（大正十一年一月二十日、二）第二輯（八月二

日博文堂各書會社）、『南游志』（齋

藤謙名、大正十二年八月二十五日和歌



山・森彦太郎編輯）、『地球外の生活』（大正十五年十一月十日改善

社）、『魂は叫ぶ』（昭和六年十一月十五日大阪・良書刊行會）、『京

小田舎の』（合著・宮崎小次郎編、昭和十七年五月五日京都・鬼文

社)、 『獨歩と武藏野』 (昭和十七年九月十五日、再刊・二十一年十月十日京都・夏文社)、 『國木田獨歩と其周圍』 (昭和十八年二月二十日小學館)、 『家庭の活劇—徳喜蘇峰大入』 (昭和十八年六月二十日大阪・教學書房)、 『蘆花と作品』 (昭和十八年七月十五日京都・夏文社)、 『勝の爲の心戦の村』 (昭和十九年九月二十日大阪・大阪新聞社)、 『野口不滅之精神』 (内題「不滅之精神—野口英世記念館」) (昭和二十二年二月十日、日藝文社)等。